（別紙4）　　平成　26　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4795400052		
法人名	社会福祉法人　明和会		
事業所名	グループホーム良長園		
所在地	豊見城市字金良88番地		
自己評価作成日	平成　26年　7月5日	評価結果市町村受理日	平成26年9月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=4795400052-00&PrefCd=47&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社　沖縄タイム・エージェント
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10－25　1F
訪問調査日	平成26年　8月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

起床時に普段着に着替えて頂き、寝る前には寝間着に着替えて頂き寝やすい状況を作る。小奇麗に整容等を支援する事で、日中と夜間のメリハリをつけている。
ご入居者の消耗品は、ご家族へ連絡し買い物して頂き施設へ届けてもらっています。買い物をお願いする事で、最低でも月1回はご入居者とご家族が面会が出来るよう意図的に行っています。
又、2ヶ月に1回程度、ご家族交流のイベントを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

記録がきちんと整備され、改善点や継続点を明確にし、日々の業務に活かしている。敷地内法人関連施設や事業所等と合同行事実施や勉強会、医療体制等の連携を取りながら、お互い補えるよう協力体制が構築され、利用者が安心して生活できる。思いや意向を「気づきチェックシート」等を管理者や職員で共有しながら、利用者の残存機能を活かし本人の役割や力を引き出し支援している。法人全体で職員の育成に力を入れ、研修会や勉強会へ参加し、職員の質向上に努めている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
		○	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

確定日：平成 26年　9月 12日

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価	
					次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理事長を講師とし、職員に対し勉強会を実施。毎朝の唱和も行っている。	現在の理念は、職員や管理者の参画はなく、法人理事長が前回の外部評価結果を踏まえて、見直しを行った。職員は、ミーティングや日々の業務の中で、お互いに確認し合い理念の統一を図っている。誰でも常に見れるように事業所入口に掲示し、家族へは入居時に説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人の地域貢献事業により来園する地域の方々と交流したり地域の婦人会を招いておやつ会を実施している。	住宅地から離れ、広い敷地内の法人の一番奥側に事業所があり、用事等がないと殆ど地域住民の訪問がない。婦人会や法人内に来た保育園児、法人合同行事ボランティア、法人関係OB職員との交流は行っている。自治会へは加入はしていない。	立地上の条件等があるが、法人内で開放している「ふれあいサロン」の活用や事業所側から地元へ「認知症について」の出張講演等を開催する等で、日常的な交流を積極的に取り組んでいく事に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年に1回、市内の方を対象とした認知症に関する研修を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、地域の代表、豊見城市職員、地域包括支援センター職員、元施設職員経験者により、奇数月第二金曜日に開催している。状況報告をしながら各委員からの意見を伺っている。	委員や家族から消防訓練や地域との交流有無等の質問や意見があるが、利用者からの意見等は確認できなかった。事業所は現状報告書を読み上げ、委員からの質問に回答を行っている。議事録は、参加委員に配布し、事業所玄関入口にいつでも閲覧できるように置かれている。	事業所の取り組み内容や具体的な課題を話し合い、地域の支援と協力が得られる会議の取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じ市町村や介護保険広域連合と連絡を取っている。	自治体より「認知症について」や「生き生き健康教室」等の講師依頼がある。事業所は、市町村担当者と認定更新手続きや制度上の相談、空室等の報告をしているが、それ以外で連絡する機会は少ない。研修会案内等は法人宛にfax通知や郵送がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠については防犯と安全管理の為夕方以降から早朝に掛けて施錠している。	身体拘束を行う場合の対応は書面にて明文化され、入所時に家族へ説明している。職員同士は日頃から利用者に対して、言葉かけや対応が身体拘束に当たらないかお互いに確認している。利用者が一人で外出する場合もさりげなく声かけし、一緒について行っている。玄関は時間帯でシャッターを閉めているが、脱衣室側の出入り口は、常時、開放している。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価	
					次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	外部研修に積極的に参加し、その中で学んでいるが虐待防止に特化した研修等は行っていない。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に積極的に参加し、その中で学んでいるが権利擁護に特化した研修等は行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前に重要事項説明書を提示して説明し、契約者が納得したうえで契約書を交わしている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情申し出の過程を説明し、事業所以外の市や県に申し出ができる事を説明している。家族面会時にモニタリングを行い、その中で意見を伺っている。	家族が2週間に1回消耗品を持参する際や担当者会議、電話で意見や要望を聞いている。例えば、車いす対応利用者の病院の受診協力希望がある場合は、法人職員の協力で実施している。利用者からは、日常の会話から要望や意見を聞くが、感謝等の言葉が多く、運営に関しては、今のところない。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員ミーティングで全員の発言の機会を設けている。また、半年に1回個人面談を行い意見を聴取している。	毎月職員全員が参加できる日を選び、ミーティングを実施し、欠席者は後日、議事録を見て情報共有している。ミーティングでも活発な意見や提案が出され、業務に反映されている。例えば、共有スペースに畳間を設置し、家庭的雰囲気を作り、利用者が寛げるよう環境整備を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賞与については人事考課制度を導入し、能力や努力に応じた報酬が得られるようになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の資格保有状況、外部研修参加状況等を把握し、適切な研修の機会が設けられるようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価	
					次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡会等への派遣や外部研修を同業者との交流機会としている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始時、計画見直し時のサービス担当者会議に本人も同席してもらい、意向や要望を伺っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始時、計画見直し時のサービス担当者会議に家族も同席してもらい、意向や要望を伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する前にサービス担当者会議を開催し、必要としている支援を確認している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で共にできる家事仕事等を一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは日常生活品や内服等の情報を細かく連絡を取り合っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	デイに通われている方と今までの関係が保てるよう面会等出来るときは行っている。	高齢化に伴い、これまでの関係継続が困難な状況になりつつあるが、管理者や職員は、家族から情報収集し、馴染みの美容室や出身区近くまでのドライブや同法人内施設に通う友人を訪ね、関係継続が途切れないように努めている。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価	
					次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関わり合いに対して職員は常に心配りをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時、退去後に必要に応じ支援する旨を伝えている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス開始前のアセスメント、利用中のモニタリングを行い意向の把握に努めている。	本人からのアセスメントで、日課としていた散歩を事業所でも同じように職員と一緒に行えるよう支援している。また、日々のケアを通して「気づきポイントシート」や介護日誌に利用者の思いや意向を記入し、管理者や職員間で共有、確認している。不穏時等は、本人の表情や行動から汲み取り把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や一緒に生活していた家族、入居前に担当していた介護支援専門員などから情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のバイタルチェック等で体調の確認をしている。情報を共有し、その日の生活に配慮している。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議において本人、家族、計画作成担当者、担当職員が参加し、計画を作成している。	管理者が計画者を兼務しており、見直しは、状況変化や更新時行っている。計画者は、3か月に1回は、家族、利用者から聞き取りを行い、居室担当職員は毎月モニタリングを実施している。業務日誌に長期、短期目標を書き、職員間で共有を図り、利用者の残存機能の活用や役割作りに活かされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全職員が関わりの中で状態の把握に努めており、変化があれば記録し、職員間で共有している。居室担当制を設け、担当者がより深く関われるように取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価	
					次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の状況が変われば、サービスも同時に変化できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	食材等は地域の各商店から購入、または配達してもらっている。		
30	（11）	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人がこれまで通っていたかかりつけ医に引き続き見てもらえるよう配慮している。必要に応じて通院の支援も行っている。訪問歯科も導入。	利用前からのかかりつけ医で基本的には家族同行の受診となっている。困難な方は事業所が送迎にて受診支援している。その他、事業所の協力医による定期健康管理や訪問歯科診療等、適切な医療がうけられるよう支援している。情報提供や受診後の情報は家族より口頭で受け共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良やけがの処置等必要なときに併設の施設の看護職員に協力してもらっている。また、毎日入居者の異変等について申し送りを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中は定期的に面会し、入退院時には病院の地域連携室等と連携し、情報を共有している。		
33	（12）	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の対応等について契約者と話し有っている。	重度化や終末期に向けた方針は明文化していないが、契約時には重度化した場合の対応（特養や医療施設への搬送）、医療体制、看護師の配置がない等の説明を行っている。家族の意向や希望があれば、その都度話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応フロー等を掲示している。応急手当等については消防署で実施している普通救命講習に派遣している。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価	
					次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は昼間想定1回、夜間想定1回、自隊訓練1回の年3回実施している。住宅地まで距離があるため敷地内の同法人職員と訓練している。	3月に夜間想定の避難訓練等を行なっている。実施後、避難に時間を要したとのことで、移動手段としての車いすを常時6台置いている。昼間想定は次年度3月に予定している。消防署協力の総合訓練は今後検討していく。地域との協力体制は厳しく敷地内の同法人職員の応援態勢をとっている。	事業所敷地内は同法人の施設がいくつかあるが、消防署協力の総合訓練は今後検討していくとしている。夜間は同法人、施設内の夜勤職員の応援態勢はあるが、職員だけの誘導の限界を踏まえ地域の人々の協力が得れるような取り組みが望まれる。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーは確保しつつ言葉かけは配慮している。	権利擁護の研修会やユマニチュード（認知症高齢者ケア）の講演会等に参加し、入居者への言葉かけや対応に配慮している。入居者の尊厳を大切に一人ひとりができることをみつけ、残存能力を発揮できるよう環境に配慮して支援している。（車いすにて洗濯物干し、食器洗い、園芸、水やり等）	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクや活動等出来るだけ希望に添えるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間や入浴時間については職員の体制によって本人の意向通りに提供できていない場合がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧や髭剃り等個々の思い出行動されるので支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食は提供時間の関係上職員が調理、夕食は本人の能力に応じた調理や下ごしらえ等を実施している。	朝食の献立は居室担当者が一週間分づつ作成し、法人の栄養士が毎日検食を行う。昼食は法人で調理され入居者と職員が運び、盛りつけをして一緒に食事をとる。食事の形態は利用者にあわせてトロミをつけるなど配慮している。食後は食器の片付けや食器洗いを職員と行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事チェックや水分チェックを実施、昼食は栄養士の献立で併設施設が調理、朝食は栄養士に検食を依頼している。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価	
					次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの誘導、物品準備を行う。必要に応じて介助を行なう。訪問歯科による口腔ケアも実施。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排せつは時間を見計らいトイレ誘導を行っているが失敗することがあったりする。	利用者各自の排泄のチェック表を利用しながら支援している。夜間もトイレ誘導する自立の方や、ポータブル使用の方と一人ひとりの力に応じて自立に向け支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防は運動を取り入れたり、処方された内服薬で調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の勤務体制上主に午後の対応になってしまっている。入浴は毎日実施しているため曜日は本人の希望の応じている。	入浴時間は決めず、一人ひとりの希望に合わせて個浴にて支援している。毎日入浴する方や浴槽を使う方と個々にそった支援を行っている。浴室は暖房機、脱衣所は扇風器があり寒暖に合わせ使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人が休息したい場所でできるよう配慮している。自室で眠れない方は畳間等を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の飲み忘れや間違いがないよう複数職員で内服確認を行っている。薬の説明書はいつでも職員が確認できるようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	農業などをされていた方には菜園の手入れなど本人に合った役割を支援している。天候や本人の意向を聞きながらドライブも実施している。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価	
					次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設内の芝生や花園菜園の散歩、デイサービスなどほかの事業所を訪問したりしている。施設外へは計画してドライブや社会見学等を実施している。	敷地内の他の事業所訪問や広場を散歩したり、施設周囲に置かれた長椅子やソファーで日常的にくつろぐ方もいる。芝生の広場からは民家や畑、山々が眺望でき、バーベキュー会や盆踊り等が行われる。ドライブで利用者の地域を訪ねたりお花見に出かけることもある。また、個別に買い物支援も行う。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望により小遣い程度所持金を持っている方もいる。散髪等必要時に支払っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により自宅等へ電話をかけている。正月には年賀状の発送支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は清潔が保てるよう配慮しているが室温やテレビの音はそれぞれ感覚が違うためなるべく中間でお互いが妥協できるようにしている。	共用空間は利用者がくつろげるようにテレビの前にはソファーが置かれ、その一角に新しく畳の間が設けられ、利用者が横になって休まれている。整容室やトイレは各居室から近い場所にあり、広々として明るい作りとなっている。廊下や出入り口も広い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内のソファーに座ったり、テーブルを囲んだり思い思いに過ごせるようにしている。屋外でもソファーに座れるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人の使い慣れた衣類や物品を持ち込めることを説明している。	ベッドやタンス、家具が備え付けられ、写真等が貼られている。本人の使い慣れた衣類はチェックリストに記して、家族と相談しながら追加したり、持ち帰ってもらったりして整頓している。利用者は自分の好みの着替えが取り出せるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベッドの高さの調節や移乗バーの設置、手すり等により自分で出来るよう工夫している。		